

幼児・児童教育研究センターの取組

幼児・児童教育研究センター 所長 古川元視

幼児・児童教育研究センターは、昭和56年（1981年）に設置され、別府大学短期大学部の研究活動の拠点として39年間歩んでまいりました。センターの主な内容としては、1 幼児・児童の発達とそれに応ずる教育の研究、2 教育課程・保育課程及びその指導方法等の研究、3 教材・教具の開発、製作指導及び資料の提供、4 幼児・児童教育に関する資料・図書等の収集、整理提供、5 幼児・児童の教育に関する講演会等の開催、6 地域における子育て支援事業、7 幼児・児童に関する相談事業、8 その他センターの目的達成のために必要な事業があります。

今年度は、別府大学短期大学部公開講座開催の年度でした。今年度から、午前中に小学校教員対象に1本、午後に保育者対象に1本の公開講座を開催することにしました。これは、上述しましたセンターの主な内容を踏まえてのことです。初めての小学校教員対象の講座では、本学の大田亜紀准教授による「これからの小学校外国語教育」の講演会を開催しました。大田准教授の講演では、授業改善と学習改善のための「評価」を中心に、今年度から全面实施された外国語活動・外国語科の授業改善などについてわかりやすく解説して頂きました。午後は、白梅学園大学無藤隆名誉教授による「乳幼児の保育・教育とは～環境を通しての保育により子どもの主体性を育てる～」の講演会を開催いたしました。これらの講演会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加人数の制限を行い、午後の講演は、東京の会場と別府大学3号館ホールを繋ぐリモート講演にて実施し、県内の小学校、保育関係者、専攻科学生を中心に延べ約100名の参加がありました。無藤隆氏の講演では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項について、保育場面の写真を交えながら具体的に詳しく解説をしていただきました。参加者からは、「園の保育者全員で聴きたい内容のお話で、実践例からのお話だったので大変勉強になった。」などの感想がありました。講演内容については、本レポートに掲載しております。

実践報告では、境川保育園、春木保育園、別府大学附属幼稚園、明星幼稚園、明星小学校の先生方から、大変特色ある取組について執筆いただきました。また、別府大学短期大学部初等教育科教員による研究論文等も掲載しております。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の養成校としての教員の研究活動についても御覧いただけますとありがたく存じます。

また、次のように、当センターの活動部屋を、昨年度、初等教育科事務室の隣に移管し、スムーズな業務ができるように改造いたしました。今年度は、そこで本学の菅原講師による「子育て相談」を実施しております。さらに、現在、幼児・児童に読んでほしい図書をそろえているところで、今年度購入しました図書リストも巻末資料に掲載しておりますので、参考にしていただければ幸いです。

これからも、当センターでは、研究活動の拠点として様々な活動を行っていく予定です。奮って御参加いただきますようお願い申し上げます。

令和2年度 幼児・児童教育研究センター 改造後



幼児・児童教育研究センター外観



新しくなった扉



絵本が
いっぱい
です。!



机や椅子を移
動し、読み聞か
せもできます。

幼児・児童教育研究センター内

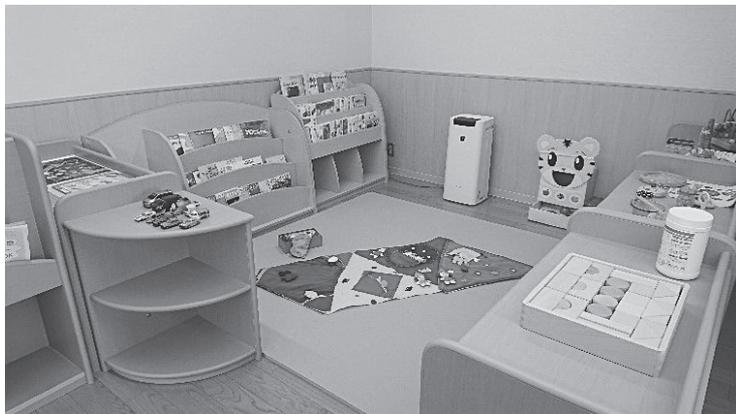


きつず コーナー



きつず コーナー

保護者が相談
中、子どもは自
由に遊べます。



きつず コーナー



授乳室